

生分解性マルチの効果確認試験

JA十勝高島

山根 岳大



1.試験区 6月26日撮影



2.試験区 6月26日撮影



3.試験区 8月4日撮影



4.試験区 8月4日撮影



5.慣行区 8月4日撮影



6.試験区 9月22日撮影

試験目的

生分解性マルチの効果確認試験

試験作物 及び品種

南瓜(ケント)

試験資材 及び数量(規格)

コーンマルチⅡ(0.015mm×135cm×400m) 4本 透明 有孔

慣行資材

サンバイオ

栽培方法

定植日

5月30日

収穫日

9月10日

【栽植密度】
畝幅：66cm
株間：60cm

資材使用期間

5月下旬～9月中旬

試験区面積

1ha

試験結果

(1)作業性について(慣行品との比較)

今まで使ってきた生分解性マルチに比べて、よく伸びるマルチだと感じた。

展張した時、伸びた後縮んでマルチにシワができてしまい、土をかける作業が余計に発生したので大変だった。

有孔品でもセンターマークがあり、芯への巻き方も問題なく、マルチャーへの設置はしやすかった。

(2)作物の生育状況または、収穫への影響

特に差は感じられなかったが、通気性は良かったように感じる。

(3)資材の強度・耐久性・崩壊性について

現時点では分解速度に差は感じられない。来春以降も分解状況を確認したい。

(4)保温効果について

特に差は感じられなかった。

(5)雑草・病害虫の発生について

特に差は感じられなかった。

モニター感想

試験品はよく伸びるマルチだったため自分には展張しづらかったが、それ以降は慣行品と変わらず、問題なく使用することができた。

少しでもコストを下げて省力化したいので、低コストで長尺の生分解性マルチを求めている。

引き続き新資材の情報を提供してほしい。

JA担当者の感想(購買部 塚本部長)

日頃から丁寧に作業される生産者であるため、細部まで資材の評価をしていただけたと思う。

展張する時に苦労したようだが、その他に問題は見られず、薄くても実用性は十分あると思う。

生分解性マルチについては、安価な商品や長尺品が求められているので、今後も生産者の要望に答えられるように、色々な銘柄を検討していきたい。

今後の使用について

改良して欲しい。

もっと張りがあるマルチの方が使いやすい。

将来希望する資材について

マルチを展張する時に省力化できるため、600m巻や800m巻といった長尺品がほしい。

1 高温対策

2 害虫忌避効果

3 調光フィルム

4 3Dネット広幅

5 クリーンシート

6 マルチ

7 不織布

8 育苗資材

9 酪農資材

10 その他